

「環境体験事業」を成功させる8つのポイント



- 自然を対象としたダイナミックな体験を!
- 地域の「こと・もの・人」を生かした活動を!
- テーマ性を大切に活動の構想を!
- 事前学習・事後学習の充実を!



- 児童とともに驚き、感動する感性を!
- 支援者との連携の強化を!
- 学校全体で評価・検証し、組織的な実施を!
- 発達段階を踏まえた活動を!

「環境体験但馬地域支援委員会の提言」

こんなことに困っていませんか?

～環境体験事業 Q & A～

困ったときは、この冊子を聞いてみてください。いろいろなヒントがつまっています。



2021
環境体験事業実践事例集



Q 指導者をどのように見つけ、依頼すればいいですか?

A 各関係機関が情報を把握していますのでお問い合わせください。あらかじめ担当が、子どもたちにどのような体験をさせたいかを明確にしておくことが大切です。

各市町教育委員会
但馬県民局(県民室環境課) TEL.0796-23-1001(代表)
竹野スノーケルセンター・ビジターセンター TEL.0796-47-1932

Q 環境学習に必要な器材等が学校に不足しています。何かよい方法はありませんか?

A 但馬県民局から網、顕微鏡、図鑑等、環境学習に必要な物品を貸し出してもらうことができます。ご希望の方は、電話でお問い合わせください。

但馬県民局(県民室環境課) TEL.0796-23-1001(代表)

環境体験事業の円滑な実施のために

子どもが かがやく 環境体験

図鑑で調べてみようか。

オイカワ、それともカワムツかなあ。

足で追い込んでみようかな。

そっと、そっとだよ。

写真提供：豊岡市立寺坂小学校

環境体験但馬地域支援委員会・兵庫県教育委員会但馬教育事務所

環境体験但馬地域支援委員会

[事務局] 〒668-0025 豊岡市幸町7-11 兵庫県教育委員会但馬教育事務所内 TEL.0796-23-1001

環境体験支援サイト ● さらに多くの事例を、こちらのサイトで紹介しています。

URL : <http://www.hyogo-c.ed.jp/~tajima-bo/kankyou-taiken>



豊岡市立城崎小学校



年間テーマ 「おかえり コウノトリ」

事前学習

身近にある資料でコウノトリについて調べてみよう。

体験活動

①ハチゴロウの戸島湿地を探検しよう。



5月中旬

学校の近くにある戸島(としま)湿地に出かけました。豊岡市役所コウノトリ共生課とコウノトリ湿地ネットに協力していただき、戸島湿地にいたコウノトリの観察と生き物調べを行いました。身近なところにもかかわらず、子どもたちはあまり訪れたことがなく、子どもたちは驚きと発見の連続でした。

②戸島湿地にいる生き物を調べよう。



5月下旬

この日も豊岡市役所コウノトリ共生課とコウノトリ湿地ネットの協力を得て、湿地から円山川へ注ぐ水路において生き物調査を行いました。生き物の特徴を教わり、分類していくと、フナやテナガエビなどの在来生物だけでなく、アメリカザリガニやウシガエルのおたまじゃくし等の外来生物もたくさん見つかりました。湿地を管理していくことの大切さを、子どもたちは体験的に学びました。

③「コウノトリ育む農法」の田んぼの生き物を調べよう。



6月中旬

湿地近くの田んぼに入り、生き物調査を行いました。シオカラトンボのヤゴやヤマアカガエルに加え、ウナギまでが見つかり、「コウノトリ育む農法」が多くの命をまぐんでいることを実感しました。

「コウノトリ育む農法」とは... お米とともに多様な生き物をまぐり、コウノトリもすめる豊かな文化、地域・環境づくりを目指すための農法です。

事後学習

体験したことをもとにレポート「コウノトリが安心して住める城崎をめざして」にまとめよう。

成果

- 校区にある戸島湿地への興味・関心が高まりました。
- コウノトリの雛の孵化から巣立ちまで継続的な観察を行うことができました。
- 市役所やNPOとの協力関係ができたことは、他教科や他学年の学習にも生かすことができそうです。

POINT3 活動を終えた後は、場所・時期・サポーター等を、次年度に必ず引き継いでいくことが大切です。

香美町立小代小学校



年間テーマ 「たんけん!発見!わたしたちの矢田川」

事前学習

昔と今の矢田川の様子や生活との関わりを比較し、その変化を知ろう。

体験活動

①矢田川の源流をさぐる。



6月中旬

矢田川の源流付近にある吉滝を探検しました。滑りやすい岩の上を用心しながら川上へ進み、清流にすむ生き物調べを行いました。また、実際に川の水に足を浸し、水の冷たさも実感しました。

②矢田川上流の生き物を見つけよう。



6月下旬

2つのグループに分かれ水生生物調査と魚種調査のために魚釣りを行いました。生き物が苦手だった児童も、和やかな雰囲気の中で自然に生き物にふれることができるようになってきました。

③矢田川の源流に生息する「サンショウウオ」をさがそう。



7月上旬

川やその周辺の石の下に生息するサンショウウオを見つけました。サンショウウオに加え、めずらしいサンショウウオの卵塊(房状になった卵)も見つけることができました。

児童の感想から

にいせの川でサンショウウオ探しをしました。ぼくはサンショウウオとはなかったけど、たまごを見つけました。たまごは、ぶにぶにゆっていました。サンショウウオは、イモリみたいな生き物でした。ちよっとざわつたら、すぐに動いて逃げました。

事後学習

矢田川について学んだことをまとめてクラスで発表しよう。

成果

- 地域の身近な自然(矢田川)を活動場所にし、季節による自然の変化を感じることができました。
- 地域の方々の協力を得ることにより、地域に密着した活動を行うことができました。
- 地域の方々が地域の自然を守っていくとされる姿に気付くことで、事後学習の発表会で、自然をより一層大切にしようとする意見が多数出されました。

POINT1 テーマを設定するときは、地域性も考えましょう。前任者に情報を求めることも大切です。環境体験実践事例集(H20発行)にも多くの事例を掲載しています。

テーマ設定の理由

本校区には矢田川の源流があり、地域の中心を南北に流れている。今もなお多くの生き物が生息しており、豊かな自然が残されている。矢田川での体験活動を通してふるさとの自然にふれ、生命を実感させることで自然豊かな郷土を誇りに思い、大切にしていこうとする心情を大きくしたい。

POINT5

サポーターにまかせきりにするのではなく、関わってもらう立場を明確にし(専門的な指導、活動の補助、安全確保等)、活動を計画しましょう。